

## フォレストバウルジオパーク（ウェールズ）と室戸ジオパークにおける科学知識の表現と理解と活用

### Representation, Understanding and Application of Scientific Knowledge in the Fforest Fawr Geopark (Wales) and the Muroto

柴田 幸子<sup>1\*</sup>

Yukiko Shibata<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> なし

<sup>1</sup> none

人々の科学に対する意識を高めるためには、科学館や科学イベントなどの科学に触れる機会は幅広く人々に開かれていることが望ましい。ユネスコによって支援されているジオパークの枠組みは、科学に関わる活動として様々な分野や興味の人々に訴求し、活動に引き込む可能性を持っていると考えられる。ジオパークは地質的価値だけでなくそれに関わる地域の歴史や文化、人々の生活などが総合的に評価し、それらを保護し教育や研究、また観光をはじめとする地域の産業などに活用していくことを目的としているからである。

これらの目的を達成するためにはジオパークの価値や特徴がどのように伝わり、理解されているのかが活動の重要な基盤となってくる。この調査はジオパークの情報媒体を通して地質を含む科学知識がどのように表現され理解され利用されているのかをそのコミュニケーションのプロセスとそれに影響しうる要因に着目して調べた。またコミュニケーションの特徴を明確にするため、ウェールズのフォレストバウルジオパークと日本の室戸ジオパークにおける調査結果を比較した。

調査方法として、ウェブサイトとパンフレット、野外の解説看板、展示物の分析、これらの情報媒体の制作に関わった人々への質的インタビュー、ビジターへの自己記入式アンケートの3つの手法を用いて、科学知識がどのように表現されているのか、何を意図して作られたのか、ビジターにはどのように受け取られ、彼らのジオパークにおける体験にどのような役割を果たしているのかを調べた。

結果は、情報媒体とジオパーク側の期待、ビジターの体験はそれぞれに影響しあっていることを示した。2つのジオパークの間では、ビジターの興味や体験、ジオパークについての認知度や情報媒体を通じた理解において違いが見られた。また情報媒体の意図やジオパーク自体の特徴、国民性、性別、年代が調査結果に影響していると考えられる。

ジオパークは多様な人々を活動に引き込む可能性を持ち、そこでの科学知識にまつわるコミュニケーションはジオパークの状況やビジターによって違いがあることが結論づけられる。

キーワード: ジオパーク, 科学コミュニケーション, インタープリテーション

Keywords: geopark, science communication, interpretation